

高崎高校同窓会報

2011
No.45

発行所／高崎高校同窓会 〒370-0861 高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-324-0074

平成23年11月30日

応援 団結… 仲間に支えられて関東 4 強進出



上州野球見せるんだ

[illegible][illegible]

町は高高一色に

[illegible]

ワキの臭いが消えずせ
量も少なくなります。

脱毛美容

●AM10:00-PM7:00(火曜定休)
●TEL予約制
伊勢崎ビューティセンター
23-6536(伊勢崎駅より2分)

何とか
健闘

一勝したい
の語 甲子園に
いプレーを待た
うが在はる
を祈る

ついでに、**いんてーなう**
イギリスの**Symphony**
のであらう。この
ものに音楽の
ページを添
八十五万圓

[illegible]

31年（昭和56）




▲初出場

选拔出

本県のセンバツ史

10屆 (8年)	學生中：一回戰
13屆 (11年)	學生中：英勝
16屆 (14年)	學生中：一回戰
17屆 (15年)	學生中：一回戰
18屆 (16年)	學生中：一回戰

19回	(22年)	養生中	華女決闘
20回	(23年)	養生工	一國眼
22回	(25年)	養生高	華女決闘
24回	(27年)	養生工	華女決闘
27回	(30年)	養生高	決闘
28回	(31年)	養生高	華女決闘

38团 (38年)	蔡生高	一、副联
37团 (40年)	王大二	单、快联
38团 (41年)	前精工	一、副联
39团 (42年)	蔡生高	二、副联
50团 (53年)	蔡生高	单、快联
	前精工	二、副联

51回 (54年) 前橋工・二回戦
52回 (55年) 豊大二・一回戦
53回 (56年) 高崎高

死の運命は種を喰
かりどけこんだ
之類から初めてそ
このは昭和八年二
年生中。開れの無
くも二回で敗れ
出た時は涙が
土州界、の

をセンバツに
來た。
センバツに樹
(第十國大色)
當り同中は香
たが、十二年
間に亘り樹を
名を全國に傳

生もベスト4まで上りつめた。彼らに五十四回に丁度水の六回を勝つた。今、彼がどんな戦いをするか、高橋勝雄ファンズでいふ。

で捕出、甲子園に
送還した。

1日 毎日新聞より

This is a small, grainy aerial photograph showing a coastal area. A road or path runs along the shoreline, and a building is visible near the water's edge.

で堂々と入場行
生徒全員で「高

あれから30年
この光景の再現を期待

▲1981年（昭和56年）2月1日 毎日新聞より

▲初出場の甲子園で堂々と入場行進する選手たち
◀選抜出場を祝い生徒全員で「高高」の人文字

ご挨拶



高崎高等学校同窓会長(57期)

■ 佐藤 和徳

歴史と伝統を誇る本校の同窓会長に就任して、早くも半年が過ぎようとしています。

前任の原先輩から同窓生にとって“伝統とは行先を照らす電灯である”決して本学の伝統行事を軽んずることなき様にと、オヤジギャグ混じりに申し送りを受けました。

東日本大震災にもめげず、礼儀正しさと積極進取のバランスのとれている本学の

生徒をみるにつけ、普段、寡黙な教頭先生がポツリと言った、“やりたい事を控えめに、やりたくない事をキチンとやる”教育の意味が少し理解できた。自分が頑張るより他人様を努力させることの方が難しい時代に校長先生以下よく対応しているものだと感じた。

セルリアンブルー校歌の作詞をされた草野心平氏が本校にはバラの香りの他に、GHQにより解体させられた旧制高校の残り香があると、その講演で述べられたことが憶い出される。

現在、高校再編に関する検討案として、一面的な「男女共同参画社会の理念」によって県立高校の共学化を進める動きがある。

高崎市内別学出身の婦女子の中に、高い見識と広い視野を持ち、他分野にわたって、その集中力を発揮される方が数多くいる。教育費・教育内容、その他の重大な偏重があれば糺すべきである。

なでしこジャパンの活躍にみるだけでなく“日本の男社会”が崩壊しつつある

のかと、先日訪れた江田島、旧海軍兵学校資料館で考えさせられた。

私個人は男女共学校からの転校生で高々が別学でよかったと実感している。又、^{かかあ}嬪天下の上州では別学の方が良いのではないかとロジックにならない屁理屈で人材育成への影響を強調している。

もとより、異論は覚悟しているが、応援歌“翠巒”は男同士で歌いたい。インターハイで、いや、もう一度甲子園で翠巒を歌いたい。

これまでも本校から多くの研究者を輩出している。スーパーサイエンス、ヒューマンサイエンス スクールに指定された実績もあり、本学出身のノーベル賞受賞者をお迎えして、一緒に“翠巒”を合唱してお祝いしてあげたい。

ほんの一時でも“日本の復興再生”エネルギー問題、外交軍事の継続性、TPP など、経済問題、社会保障と課税の問題などを忘れて先輩後輩以外の上下関係のない時間が過ごせればと夢想している。



高崎高等学校校長

■ 羽鳥 進一

今年度より高高校長として着任し数ヶ月を過ごす中で、同窓の方々の母校に寄せる熱い思いをひしひしと感じております。それは他校とは比べものにならない強さであり、まさに身の引き締まる思いであります。微力ながら、本校の益々の発展のために、誠心誠意努力して参る所存です。

さて、生徒たちへの着任の挨拶で

現在の心情として、高浜虚子の句を借り「春風や 闘志を抱きて 丘に立つ」と述べました。その翌日に新聞部の取材があり、新校長として高生への思いを正岡子規の俳句で示してくださいとの要望を受けました。生徒の突っ込みのうまさに恐れ入るとともに、反応の良さを大変うれしく思いました。

因みに、即答できずに一日の猶予をもらいましたが、「若鮎^{ふたて}の二手になりて上りけり」を選びました。生き生きとした若者がはつらつと切磋琢磨する様子が思い起こされ、「二手」は高高と前高になぞらえることもできるとの思いでした。

ところで、「目的」と「目標」はよ

く混同されがちですが、高校野球を例にとるわかりやすい。つまり、甲子園出場は目標であり、目的は人格の陶冶といえます。これにならって私の学校経営の基本を表現すると、目標としては東大合格者数を象徴とする進路実績を上げることであり、目的は身に付けた知識を活用できる能力を育て、将来社会の中心になって活躍する人材の育成することだと考えています。今後も文武両道を実践し、翠巒祭や定期戦を大切に、賢さとたくましさ兼ね備えた生徒を育てていきたいと思ひます。

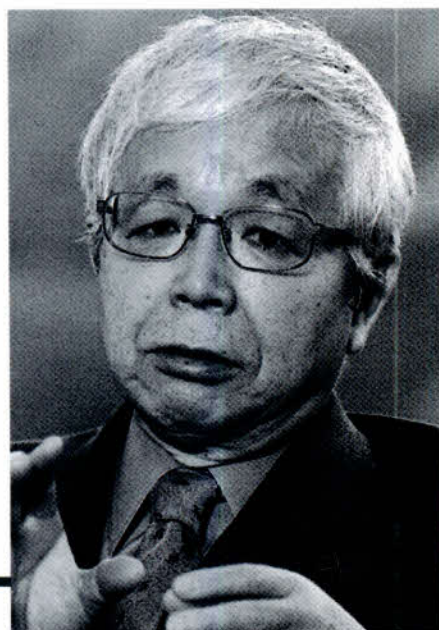
同窓生の皆様には、先代藤倉校長に変わらぬお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

潮流

今昔首相番記者物語

松田 喬和

毎日新聞論説室専門編集委員
(1964年卒 63期)



新聞記者を始めて、40年以上が過ぎた。思い返せばあっという間だった。原点に戻ろうなんてカッコいいことをいうつもりはないが、今も再び37年前と同じ首相番記者をやっている。09年の政権交代を契機に半ば現場復帰を志願した。以来、鳩山由紀夫、菅直人、野田佳彦と民主党の歴代首相を身近に観察してきた。若手記者が励んでいる本来の総理番は、首相が一日の政治活動が始める時から、総理官邸を離れる夜まで観察することが日課は変わらない。

還暦をとうに過ぎた私には、過酷すぎるので、夕刻の番記者による「ぶら下がり会見」でのチェックに済ますことにした。長年の経験から言葉のやり取りだけでなく、表情や手ぶりからトップの度量、資質を見抜き、目指すべき政治の方向性や可能性をいち早く探知するのが任務と心得ている。そして、土曜日の朝刊5面にその週の観察記録、「松田喬和の首相番日誌」と題して連載している。

最初に私が政治部に配属されたのは、入社6年目の1974年春だった。福島支局で4年、社会部で東京・下町をカバーする7方面サツ記者1年を経て、政治部に転属になった。

最初の仕事は首相番だ。大阪など他の本社

から異動になった30歳過ぎた中堅記者でも、まずやらされるのが首相番だ。事件記者がメモし、頭にたたき込むのは、何時、何処で、誰が、何を、そしてなぜの4W1Hだ。いずれも名詞を取り間違わないことが肝心だ。ところが、番記者のメモで求められるのは、ニュアンスだ。「語尾はどうだったのか。断定したのか、それとも余韻を残したのか、正確にメモしろ」と、小言を言われたことを今も覚えている。長年取材対象者と接しているベテラン記者が、語尾から政治家の心理を推察するためだ。

最初の首相番の対象は田中角栄首相だった。「角さん」の愛称で親しまれたが、首相退陣後はロッキード事件で逮捕された。一審では有罪判決を受け、上告中に波乱万丈の人生は幕を閉じた。「金権政治家」などと批判されるが、田中は高等小学校の学歴しかない初の首相だった。戦後の歴代首相は、東京大学法学部卒業者が大半だった。それまでの例外は3人だけ。戦後すぐの43代の東久邇成彦首相は宮家で陸大出。55代の石橋湛山首相は僧侶であり、戦前からのリベラルなジャーナリストで早大卒。それに大蔵事務次官を務めた第58～60代の池田勇人首相は京大卒。「角さん」のライバル、我々の先輩、福田赳夫、中

曾根康弘両首相も東大法卒で官僚OBだ。

田中は地元、新潟の高等小学校を卒業後、上京。高崎に本社のあった井上工業などで働きながら通った私立の工業専門学校が、最終学歴だった。就任直後、早々に日中正常化を成し遂げ、出足は好調だった。ところが、持論の「日本列島改造」論が、インフレをあおり、物価は高騰。トイレットペーパーの買い占め騒動が各地で発生。74年の参院選で自民党は敗北した。党内からは「金権批判」が噴出。その上、「月刊文藝春秋」で金脈問題と女性問題を追及され、あえなく在位2年余で退陣した。この激動期の最高権力者を間近で観察できたのは、政治部記者の醍醐味でもあった。

普段の「田中番」は、首相官邸の玄関口で人の出入りをチェックするのが仕事だった。来訪者に「何の目的で総理と」「総理は何と言っていましたか」などと質問し、メモするのが主な仕事だった。当時はICレコーダーもなく、ひたすら暗記力を高めるよう努めた。政局が一大事の政変時になれば、通信社に委ねていた官邸退出後のプライベートな会合まで各社でカバーしなくてはならない。「目白御殿」と呼ばれた田中邸内の番小屋に、休日などは早朝から深夜まで詰めていた。

政権最大の危機を田中は内閣改造で乗り切ろうとしたが、さすがの田中も74年11月、ついに辞意を表明した。その日の朝、田中はいつものように背広に下駄ばき姿で、母屋から陳情客の待つ邸内の事務所に現れた。「今日は珍しく仏壇に参ったし、母にも電話した」と、語り始めた。番記者だった私は、「お母さんは何と言っていましたか」と、新潟県西山町の実家で健在だった母、フメさんとの会話内容を尋ねた。「ご苦労さんと言っていた」と、答えると一呼吸おいて「母はやっぱり母だな」と。天を仰いだ瞳はうるんでいた。

レンガ造りの旧官邸の取材は、戦後しばらくは玄関口に限られていた。しかし、鳩山由紀夫元首相の祖父、鳩山一郎首相が就任した54年末ぐらいから玄関正面の階段を上り、左手にある閣議応接室や総理執務室前まで開放された。前任者の吉田茂首相の「貴族趣味」との対比で「公開性」「庶民性」を鳩山は強調しようとした狙いがあったようだ。田中の後の三木武夫首相も担当した首相番記者に昼、官邸内の食堂が用達したカレーを振る舞ったこともあった。福田は自らの意図が正確に報道されていないと、「番ちゃん集まって」と、会議室に番記者を集め、しばしば自らの考えを改めて説明した。政治家は言葉を駆使し、他人を説得し、時に妥協を図る職業だ。失言を恐れ、ぶら下がり嫌う最近の首相と比較すると、器量が違ふとしか思えない。

総ガラス張りの現首相官邸での執務が始まったのは小泉純一郎首相当時から。総理番の取材方法も大きく変貌した。総理執務室も前までは追っかけが可能だった旧官邸当時に比較して、首相の取材可能ゾーンは極端に狭くなった。原則、玄関からエレベーター前までの間に限られている。時に隣の首相公邸(旧官邸)から官邸までの間も可能だった時期もあったが、いずれも取材は距離を置いた一文を大声で呼びかる「声掛け」しかできない。返答があればオンレコードだが、無言なら再質問は無駄だ。

現官邸は傾斜地に立っている。このため玄関は3階で、総理執務室ある5階は出入り禁止。執務室付近での総理らの動向をチェック出来る唯一の手段は、5階の外廊下にセットされてあるモニターテレビだけ。しかし、映し出されない内廊下を使い、官房長官などは首相執務室に足を運んでしまう。このため、

外廊下を使う外部の人間の出入りしか確認できない。こうした取材エリアの大幅な削減は機密保持とテロ対策のためといわれている。首相への頻繁な接触を封じた代替措置が、昼と夕との「ぶら下がり会見」だった。しかし、新聞社や通信社が幹事役の昼のぶら下がり始めた小泉自身が早々に止めてしまった。テレビ局が幹事役の夕方に唯一残ったが、それも東日本大震災の発生以来中止されている。

「テレビ政治」「パフォーマンス政治」を得意とした小泉は「ぶら下がり」をフル活用し、高い支持率を維持し、最後まで求心力を失わなかった。ところが、以後のトップは、「テレビ政治」は不得意と思いこんでいる。麻生太郎首相を反面教師に登場した鳩山は、「ぶら下がり」では①記者団からの質問は途中で遮らない②テレビに後ろ姿が映らないようにする一などの原則を立て、ていねいに対応した。ところが、沖縄・普天間基地の移転問題での不用意な発言などで、一年足らずで退陣に至った。

それがトラウマになったのか、菅などは幹事社からの用意された質問が終わると、秘書官が「次の日程が詰まっていますので」と叫ぶ。すると、即座に踵を返してしまう。「ぶら下が

り」は、せつかくのトップが国民に直に訴えられるチャンスなはずなのに、テレビカメラに目をやらず用意してきた「答弁用紙」にばかり目を落とすことも少なくなかった。テレビの視聴者には自信のない総理像が出来てしまうのだ。菅政権短命の一大要因といえる。

自民党長期政権を可能にした要因の一つとして指摘されるのが、「振り子の原理」だ。典型は、安保改定を強行した岸信介首相に代わって「寛容と忍耐」「所得倍増計画」を掲げた池田勇人首相の登場であり、「金権」の田中から「クリーン」な三木へのバトンタッチだろう。これ程、鮮やかではないが菅に代わる野田の登場にも「振り子の原理」が働いている。

最近の内閣支持率は党派を問わず就任時がピークで、その後は減少傾向を辿っている。衆院選への小選挙区の導入、参院選での一人区の増加で、候補者選り以上に二大政党間の争いが激化している。党営選挙が普及した中では、党首の人気は党勢に直接影響を与える。不人気になると、求心力を失い、やがて退陣する。このところ1年前後の短期政権の足跡はいずれも酷似している。野田政権の行方が注目される。(敬称略)

松田喬和略歴

1965年 4月 早大一文社会学専修に入学
1969年 3月 早大卒
4月 毎日新聞入社、東京本社福島支局に配属
1973年 4月 東京本社社会部に配属
1974年 4月 政治部に転属、田中首相番に
1991年 2月 政治部デスク
1995年 7月 横浜支局長
1998年 4月 広告局企画開発本部長
1999年10月 論説委員
2004年 4月 論説室専門編集委員
2009年 9月 「松田喬和の首相番日誌」連載開始

著書

中曽根内閣史(95年 共著 中央公論社)
現代日本政党史録(04年 共著 第一法規)

テレビ

BS11「インサイドアウト」コメンテーター
(月、木曜日 午後10時から)
TBS「ひるおび」政治コメンテーター
(月～金曜日 午前11時から)

寄稿

東日本大震災が起きた年の 終戦記念日に思う

深尾 秀夫

関東食品株式会社 社長 42期生



私達男兄弟7人全員高高卒、父を入れると8人。次男の私は42回生。入校は今の高崎一中の上和田町、一年生の時皆と机を担いで当時の乗附の新校舎へ引越し、旧制中学五年卒業と同時に陸軍航空士官学校へ入学。空襲が激しくなり内地での訓練が出来なくなり、生まれて初めて満州へ。天長節の前日に飛行場に到着。爆撃機の操縦訓練を開始するも8月9日ソ連軍越境、直に飛行場爆破、爆弾の代わりに爆撃機に詰込まれ転進。安東で8月15日終戦を聞き（二人と乗れない戦闘機中隊の同期生はシベリアへ抑留され、帰国できなかった人も多数）貨車で朝鮮半島縦断帰国運良く8月の内に自宅に復員、5ヶ月も音信不通の倅が突然目の前に現れたので「お前足があるのか」と云った母の声が今も耳に残っている。

戦後2～3転職の後ある商事会社に入り、そこで群馬県学校給食会へ戦時中の食料公団放出の缶詰一千箱の納入に従事した事があり、その会社倒産に伴いその事を思い出し、次の時代を背負う学童の健康に一生を捧げようと昭和29年関東食品有限会社を設立。「アイデアを売ろう」を創業の精神としてスタート。何でも人より先に新商品を売ろうと心掛け、運良く昭和32年冷凍食品との出会いがあり、以来学校給食と冷凍食品を車の両輪として邁

進。更に幸いに昭和41年同級生の小山禰一君のお陰でコンピューターに出会い、ボタンを押すと売上高だけでなく、粗利高まで一緒に出てくるというので即導入。売上目標も即粗利目標に変更したお陰で以来一度も赤字になった事なく、又冷凍食品もこれ程迄伸びるとは思わなかったのに工場給食、更に少子高齢化で病院給食と大きく発展出来た。

全国業界団体も出来、その関係で中曽根総理の面談に同席出来た時、仕事の話の後「私は高高の後輩です」と云った途端、あの厳しかった顔が途端に笑顔になり、先輩後輩の話に花が咲いたのをまざまざと今も思い出す。（二人の総理を輩出した全国唯一の高校は大きな誇り）

企業は人なりを基本に57年未だ元気で頑張っては居りますが、我々42回生も毎年同窓会で元気な話題に花を咲かせ、200字通信「残目録」も厚みを増しましたが残念ながら80才を以て同窓会も終わりとなってしまいました。

東日本大震災の今年の全国高校野球県予選準決勝四校の中三校高崎勢、我が校の甲子園行きはならなかったが、学業だけでなくスポーツにも頑張ってくれている若者の更なる活躍を心から期待を致します。

寄稿

再びの青春 -入学、還暦を迎えて-

古関 武

高崎高校五十二期新高会
随想集「七十五歳の想い」編集委員会代表



後列左より中島氏、黛氏、加部氏、古関氏、岡村氏
前列左より山田氏、小峰氏、深沢氏、岸氏、松岡氏

私達が高崎高校に入学したのは20世紀の半ばである1950年(昭和25年)の春であったが、高崎高校にとっても一つの節目の年であったと思う。それは私達が新しい学制六三三制による高校入試の最初の年代であったからである。しかし私達は旧制高崎中学校から通算して52期生になるので当然のことその期別を踏襲しているのであるが、新制高校生としては第1期ということになるのである。それで卒業10年を経た節目の年に設立した組織的同期会は新制高校1期生にちなんで「新高会」と命名したのである。

それにしても私達が高々を受験したときは定員300人のところ、競争倍率が1.1倍にもならなかったもので、無試験に近い状態で入学することができたうえに、名門校の伝統と熱意ある先生方の指導を受け

て青春の開花期にあった私達にとっては、それからの豊穡な人生の指針を学ぶことができて本当に幸運な世代であったと思うのである。

高崎高校で学んだ20世紀はすでに過ぎ去り、21世紀を迎えて入学時から60年、いわゆる還暦という言葉に触発されて、人生の高揚感を体得した青春の日への憧憬から、52期同期生の文集を残そうという発想が生まれたのである。そして多くの賛同者の寄稿を受けて昨年(2010年)の10月に随想集「七十五歳の想い」と題する記念誌を上梓することができたのである。

拙書は高々「すいらん文庫」に数冊寄贈してありますので、ぜひご覧いただきたく、特に後輩諸君には刺激剤として、今後の参考にしていただければ大変に幸いなことだと思っているのである。

高高ラグビーの思い出

森山 昭治

アルフレッサ株式会社顧問 62期



昭和38年に高々を卒業して既に47年の月日が経った。ラグビー部での思い出は昨日のように覚えている。入学式の翌日中学の先輩二人に強引に入部させられた。夏合宿が終わるまで一年生はただ一人、全ての雑用(ボール磨き・スパイク修理等)を有り難く仰せつかった。この経験はその後の人生に何となく役に立った気がする。昭和35年入学した年、40回ラグビー全国大会に出場することが出来た。相手は山口水産高校、楽勝と思われたが赤城嵐にも勝る六甲嵐の強風に悩まされ1回戦で敗退した。自分は6番バックロー(今のフロンカー)として出場し唯一のトライを挙げた。相手スクラムハーフのこぼれ球を殆どオフサイドに近いトライであった。

帰りの夜行列車に乗る前に岡田先生が宝塚歌劇に連れて行ってくれた。ど田舎の高校生が初めて見る華やかな宝塚は正に別世界の趣であった。“華麗なる千拍子”という歌劇で主演は寿美花代。当時の宝塚のトップスターで今の高島忠夫ファミリーの母親である。この時の宝塚観劇は一回戦で負けてしまった全国大会以上に強烈な印象として残っている。今高々はラグビーを教科に入れていないそうだ。当時体育の授業は10月から3月まで毎回ラグビー、全生徒がラグーマンであった。そんな日が懐かしいが、現役のラグビー部諸君には何とか花園への切符を手に入れてほしいと切に願っている。

寄稿

大きい宇宙から小さい宇宙へ

村山 利之

群馬県歯科医師会会長 72期



今年の8月のお盆休み明けに、高高の同級で、一緒に高崎市歯科医師会の役員をやっていた吉田潤一郎君から突然「第72期の事務局をやっている山縣が、村山に高高の同窓会報に原稿を寄稿してもらいたいんだってさ」と電話をもらい「何で俺が?」と聞いたら「県の歯科医師会の会長をやっているからなんだって!」と言われ、その後山縣君からも、又72期の代表幹事の糸井君からも依頼があり、恐れ多くもこの原稿を書くはめになりました。

そもそも私は、高高3年の春までは、天文学者になるのが夢で、宇宙の起源であるとか太陽系の誕生とかに興味があったのですが、3年の春に村山歯科医院を継ぐはずの兄が、父と喧嘩をして神

奈川県に行ってしまうと、父から「おまえが後を継げ!」と言われ以来私の運命が変わり、「口腔」という小さな宇宙、歯科医師会という小さな世界で生きる事になりました。高高の同期では高崎の築瀬君、真下君、川崎君そして先程の吉田君、又松井田の信澤君そして私と6人の歯科医師がおります。そしてなぜか私とその同級生に支えられて高崎市歯科医師会の会長を7年勤めた後、この4月から群馬県歯科医師会の会長を勤めさせて頂いております。今でも、宇宙の事には興味はありますし、未練もなくはないですが、それでも、現在のこの「人間くさい」仕事も好きです。これからも高高の同窓として、微力ですが貢献できればと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

なぜ国が衰退していくのか

岡田 豊

テレビ朝日報道局 82期
朝の「やじうまテレビ」木曜日コメンテーター



5月、福島県有数の観光地。原発事故で観光客が激減する中、意外にもペンション楓は満室だった。しかし、夕食の食卓に笑い声はない。ビールを飲む人もいない。全員が福島第一原発周辺から避難してきた人たちだった。原発から遠く離れたホテルやペンションなどが避難所の代わりに提供されていた。足が悪い高齢女性、新婚夫婦、原発作業員…。自営業の初老の男性は「もう地元に戻れない。福島県外で仕事を探している」とこぼす。人類史に残る悲惨な原発事故は人々の人生を壊した。ずさんな原発行政を進めた政府、利権をむさぼる政治家、モラルを失った東京電力、指弾しなかったメディア。みなが思考停止した。国の衰退を象徴する出来事…。

「日本を経済大国にしたのは我々団塊の世代。国をだめにしたのも我々だ。死ぬまでに一矢報いたい」。取材先の60代経営者は言う。確かに国は沈みかけている。後世から「あのとき何をしていましたか」と聞かれたとき、私たちはどう答えるか。

問題の解はせいぜい1つか2つ。正解をみな知っているのに、しがらみと欲がねじ曲げる。群れずに自分の頭で考える。嘘をつかない。この2つだけで、今の負の流れが変わる気がする。

「朝食の時間ですよー!」。ペンション楓を営む西沢優が各部屋に声をかける。西沢は私の高高の同級生。明るく甲高い声は今も変わらない。原発事故で観光客が激減し、自らも将来に不安を抱えているが、今は被災者と一緒に黙々と闘うのが彼の解だ。



私の仕事

私の生き方

柳井 泰道

伊藤製パン株式会社 代表取締役社長 61期

昭和41年からパンの世界に飛び込みました。この業界はまだ生産志向型のプロダクトアウト時代であり、「売り切れ御免」がまかり通り、メーカーにとりましては夢の様な時代でした。儲け過ぎて、税金を払うなら社員に還元した方が良く、年末のボーナスが2回支払われた事もあり、今では信じられない程収益率の高い業種でした。

生産体制は基本的には労働集約型であり、2年毎に新工場が出来る破竹の勢いの業種でしたが…管理的には幹部は全てライン要員でスタッフなどは置かないラフなものでした。お得意様も80%は一般のパン菓子店であり、特売もなく企業も小売店も共に儲かった古き良き時代がありました。昭和50年頃からは市場にものが溢れ始め、良いものでないと売れないマーケットインの到来です。同時に競合間の闘いも激しく、市場の主導権がメーカーから流通に移り変わりつつありました。(今の中国に酷似していると思います!!)

流通業界は新業態のスーパーマーケットが台頭し、西友・ダイエー・

イトーヨーカドー等の大手が市場を席卷し、パン菓子店の弱体化が顕著になりました。更に1980年代C/V/Sの台頭が小売店に致命的な打撃を与え、古くからあった魚屋・肉屋・八百屋といったお店が衰退し、今日の市場が生まれました。

この激動化の中で必死に闘って参りましたが、メーカー志向のプロダクトアウトの夢が忘れられない企業は廃業に追い込まれました。造れば売れた時代から消費者が商品を選ぶ時代になり、メーカーにとっては大変革が急務でありました。豊かさの向上と並行し品質が問われ、クレームがPPM管理され、その多寡により売り上げが左右される様になりました。生産より市場に近い営業主体型の企業にならないと生き残れない世の中の到来です。

私は生産出身ですから軸足は常に製造にあったはずですが、市場の動きを見るにつけ営業志向に変革しないと勝ち組には入れない事を悟りました。時を同じくして工場長に任命され経営責任も自分の範疇になり、市場巡回から始め競合他社の強さを

棚から学びました。

生産主体の会社が軒並み弱体化し、資産内容随一と言われた第一パンも例外なく地位を明渡し、その立て直しが私に与えられた仕事でもあり、金町・大阪空港工場とビックな両工場長を任され孤軍奮闘の日々を過ごしました。この辺のさわりは10月の「翠巒57号」に書きましたので割愛させて戴きますが、戦後台頭した歴史の浅いパン屋だからこそ、あらゆる事に挑戦出来たと思いますし、任せてくれた当時の社長には感謝しております。世の中の豊かさと並行し美味しいものを求める食文化は著しく向上しましたが、流通業界の変革スピードはより速く、変化対応が出来ないメーカーや企画・開発力のない会社は軒並み倒産の憂き目にあいました。

入社した45年前は、大卒である事が話題になるそんな時代でした。生産現場・工場長・営業本部とパン屋の全てに携わる事が出来ました事には満足しておりますが、最後の仕上げであります会社の変革や社員の幸せの追求に関しては見解の違い

があり、消化不良のまま任期途中の退職となり心残りはあります。

忘れ得ぬものとしては、(この春の震災は未だに信じられない出来事です…) 阪神大震災と東日本大震災双方の工場復旧の陣頭指揮を執った事です。共に多くの犠牲者を出し痛みの伴う辛いものですが、こんな時節ですから敢えて震災の事を書こうと思います…。

阪神大震災は今から16年前、大阪から営業本部に赴任した直後1月17日の早朝でした。7年間も在籍した大阪空港工場ですから、飛び起きて向かいましたが、新幹線は不通、伊丹と羽田は飛行が出来ず、大阪時代の経験を活かし羽田から高知空港を経て伊丹に入りました。お陰で朝の9時には工場に到着する事が出来ました。

2階の窓ガラスは一枚の例外もなく粉々に割れて床にはガラス破片が散乱しており、50トンもある食パンオーブンがストッパーを乗り越えて50センチも動いており地震の大きさに驚きました。私が赴任した当時の大阪は地震がない事が自慢の極めて安全性の高い所でしたから阪神大震災は青天の霹靂でした。西宮・宝塚・神戸は壊滅的に破壊され避難民が26万人も出て、この人達の食糧援助をどうするかがパン屋としては心配でした。

工場の復旧は2日間で全て終わらせ、避難民の援助活動に取り組みましたが、発生2日後の19日に山崎パンの山田専務(当時)からの連絡で神戸市役所の民政局を訪問いたしました。交通は大混乱の中、西宮からタクシーにりましたが途中何度

も検問があり、45号線的高速道路は倒壊し、両サイドの家は崩れ落ち、道幅は通常の半分以下でした。神戸に向かう人達の群れは皆大きなリュックを背負い黙々と歩いており、老婆がタクシーにすがりつき「行方不明の娘を探しに行くので乗せて下さい」と泣き叫ぶのを振り切った事が、今でも後ろめたさとして残っております。通行人を乗せてはいけなとの通達があったからです。又、対向車が全て霊柩車であった事も決して忘れる事の出来ない光景でした。

市役所では民生局長と打ち合わせ、食料の支給配送を全て託されました。記憶は定かではありませんが、4日後には20近くの避難場所を山崎・敷島・フジ・神戸屋・第一パンの5社が受け持ち全避難所に完璧な食糧の支援体制を作りました。被災エリアが狭い事もありましたが、極めて迅速な対応は山崎パンの努力抜きには考えられません。以後、このご縁でパン業界内の協力体制が強固なものになりました。

東名高速道路はほとんど渋滞で動かず、東京から支援のパンを満載した第一弾の車が新潟・福井の日本海沿岸の道路を使い24時間かけて工場に到着した時には社員全員が拍手で迎えました。私が言うのは手前味噌になりますが、この時のパン業界の働きはすばらしいものでした。

大手パン会社のほとんどは傘下に米飯工場を持っており、被災者の要望に応じて、パン食から米飯の弁当に変え、更に味噌汁を付けて日替わりメニューとし、出来るだけ美味しいものを提供する配慮をいたしました。被災者からは連日御礼の手紙

が届き、パン屋に勤務してこれほど多くの方々に感謝された事はありませんでした。不謹慎かもしれませんが、社会に貢献しているそんな意識を少なくとも持てた刹那でもありました。阪神大震災では被災者にひもじい思いをさせなかった事は非常時食糧供給ベンダーとして今でも自慢の出来る事であります。

今回の東日本大震災の対応を見ると、規模の大きさや原発問題があったにせよ、後手後手対応が目につきました。何故阪神大震災の教訓が生かされないのか不思議に思います。おそらく政治家にも官僚にも当時の神戸市役所の民生局長の様な指揮のとれる人が居なく右往左往の連続であったと推察いたしますが、いかなる時にも被災者の立場で対策のとれる政府や官僚であってほしいものです。

私自身、阪神・東日本大震災と2度も大きな地震に遭遇するなど考えてもおりませんでした。特に今回の東日本大震災では計画停電・外国人研修生の帰国・原材料や包装紙の払底等々と阪神大震災では全く経験しない新しい事態が生じ、市場から数日間はパンが消えました。特に計画停電は多くの矛盾を残した悪例ですが、これに関してはもう少し時間が経ってから整理してみたいと思います。

食の世界に身を置くものとして、食べ物は生命の基本ですから、子供達が飢えて泣き叫ぶ様な映像が放映される様な事態は決して起こしてはいけなと心に誓っております。一日も早く東北の被災地が復興出来る事を祈って止みません。

同窓会だより

同窓会新年総会に向けて

岩井 均

群馬県議会議員 81期

「大先輩のおじさん達が動き回って頑張っているな〜。」

20歳代の頃、中曽根康弘元首相の秘書として初めて高中・高高同窓会新年総会に参加した時の率直な印象です。それが今年度、私達81期がその役を担うことになりました。卒業後、はや30年が経過したわけです。

平成23年8月13日（土）、81期同窓会を高崎ビューホテルで開きました。来年1月に開催される第110回同窓会新年総会の幹事期を迎え、打ち合わせを兼ねながら同期の結束を高めるために催されたものであり、70名が参加して旧交を温めました。50歳近くにもなると、皆、各分野で活躍しており、非常に頼もしい限りです。高校時代は話したことがなくても、今では自然と話

が弾むことは同級生の良さなのでしょう。中締めで恒例の翠轡と校歌を歌い、その日は2次会、3次会、そして4次会を楽しむ人もいました。

実は、昨年8月にも81期同窓会が同所で開かれました。新年総会の幹事期を迎えるに当たりそろそろ準備をした方がいいだろうと、川鍋太志氏や曾根光広氏が音頭をとって話が進められていました。その時の同窓会で、私が来年1月の新年総会の代表幹事を務めることとなりました。随時、役員会を行いつつ、12月にもう一度81期同窓会を開き、新年総会に万全を期したいと考えています。新年総会の懇親会のアトラクションについては、野球部の甲子園初出場など運動部が全国大会で活躍した期でもあり、特色を活か

したものにしたいと計画しています。

終わりに、新年総会のチケット販売では、佐藤和徳会長はじめ同窓会の皆様の温かいご協力に心から感謝申し上げますと共に、80期の先輩方には幹事期としての心構えやスケジュールなどご指導を頂き、心から御礼申し上げます。



卒業50周年 母校に記念品贈呈

狩野 常雄

卒業50周年記念同窓会実行委員長 61期

私たち高高61会は、今年で卒業以来早くも半世紀を迎えます。

昨年来、会員の中から、この時機に母校へ感謝の気持ちを添えて記念品を贈りたいとの話が持ち上がり、61会として是非この記念の年に贈ろうと決めました。

後日、61会有志が学校を訪問し、当時の藤倉校長にその旨を伝え、学校が希望している冷水機3台を贈ることにしました。「10年前に在学中に亡くなられた佐藤芳胤^{よしただね}さんのご両親が学校へ寄贈された冷水機の耐用年数がきていたので考えていたところだ」というお話を藤倉校長からお聞きし、

関係者皆様のお気持ちを61会が引き継ぐこととした次第です。

贈呈式は6月3日に開催の卒業50周年記念同窓会において行い、本間61会会長から羽鳥現校長へ目録を贈呈しました。冷水機は前もって5月26日校舎の各階に設置しました。

今回の50周年記念同窓会並びに記念品贈呈式には来賓として、同窓会本部より串田副会長、若山幹事長、学校から羽鳥校長、藤倉前校長、船津事務長、そして今春選出された富岡高崎市長諸氏のご臨席を頂きました。

61会の同窓生は、50年の節目で

あり、地元高崎での開催、そしてそれぞれが仕事とのかかわりが少なくなってきたこと等のためか、今までの同窓会最多の100名が出席、高崎ビューホテルにおいて盛会に開催されました。



「芳胤水」と命名された冷水機

縁は異なもの

山口 正敏

株式会社大陸不動産 代表取締役 58期

西暦1977年、第3回高崎ふるさと祭り（後に高崎祭りに変更）の企画実施メンバーの一員として参加した。その年の実行委員長は松浦幸雄氏にお願いすることにした。氏は期待通りお祭りのため街のため市民のため真剣になって汗を流してくれた。その10年後の高崎市長選挙に立候補するとはゆめゆめ思わなかった。激戦の末当選し以後6期24年間の長きにわたり市長として市の発展のために心血を注いできたことは御承知の通り。当時のお祭りの仲間の大半はかつての同士として松浦候補を応援したのは自然の流れだったと思う。

西暦2000年は高崎市制100周年にあたり様々な事業を検討する委員会のメンバーとして私も参加した。高崎でなくては作れないもの、高崎から全国へ又世界へ向けて発信できるものとの方向性で井上房一郎翁と少

林山の洗心亭に2年3ヶ月滞在していたドイツのブルーノタウトを取り上げ市民の自主制作によるテレビ映像の製作をし全国放映したらどうかとの案を決めた。実行委員長に小山禎一氏（故人42期）副実行委員長に横田英一氏（50期）原浩一郎氏（56期）事務局として大木紀元君（58期）と私以下10数名のメンバーを中心に、1999年の春にスタートをした。最初に当時文部省生涯学習局長だった富岡賢治氏（64期・兄である富岡昭晴氏53期の紹介）を大木君と一緒に訪ね、我々の趣旨を説明し協力をお願いしたところ、「皆さんのこれからやろうとすることは大変に素晴らしいことで又なかなか誰かがやれることではない大切なことなので全面的に協力する」と約束してくれた。ふるさとのに対する愛郷の念は大変なものと感じた。以後言葉通り物心両面の支援を

していただくことになり、事業実現に向かうきっかけになった。そのほか沢山の先輩諸兄のご支援により2000年11月23日知のDNA「夢ひかる刻」を12 ch にてテレビ放映が実現した。そして11年後今年の4月、今度は富岡賢治氏が高崎市長選に立候補し見事当選を果たした。

微力ながら胸襟を開いた仲間の一人として応援したのは当然のこと。ふるさとの街を愛し又街づくり運動の良き理解者でもあったお二人との出会いとご縁は大切にしたいと思っている。



左より大木氏、山口氏

県庁「高朋会」について

高朋会幹事長 糸井 秀幸

県庁産業経済部産業政策課補佐 82期

県職員の高高同窓会「高朋会」についてご紹介いたします。

「高朋会」という名前の由来は、昭和30年代、本会の発足当時、上毛新聞社社長で初代会長であった篠原秀吉氏（高中5期）の発案により命名されたもので、中国宋代の書物「古文真宝」の「千里逢迎 高朋満座」（千里の遠くから人が集まり、立派な友達が座に満ちている。）が出典です。

会長は、現役職員の中から選出され、現会長は高高69期で議会事務局長の栗原弘明氏です。会員は、本年11月現在で35期から106期まで591名を数え、会員名簿「翠巒」の発行のほ

か、新入職員の歓迎会や職員の慶弔に関する活動などを行っています。

50年ほど前から、2月定例県議会の開会日に、県庁前の群馬会館において、高高OBの県会議員も招いて、新年総会を兼ねた懇親会を開催しています。会の終わりでは、20歳代から80歳代までの先輩後輩が肩を組み、応援部OBの音頭により翠巒を高らかに歌うのが恒例となっています。

さて、昨年は優秀な進学状況に加え、定期戦の5連勝や各部の華々しい活躍など頼もしい限りです。また、来年春の甲子園では、31年ぶり2度目の出場が大いに期待される所です。私も

高高時代は水泳部に所属し、現在も県職員の水泳愛好会で活動中です。今後とも校是の3F精神と文武両道の下、母校の一層の発展と、多くの卒業生が県庁の門を叩くことを期待しております。



母校だより

■各部の活躍・活動

陸上競技部 3年 佐藤 誠一郎

顧問の田島先生、津久井先生またOBの方々のご協力のもと、3名の部員がインターハイ出場を果たすことができました。全国という大舞台でも自分の出せる力を十分発揮してきました。3月の大震災で一時は東北開催が危ぶまれましたが、世界の方々の尽力のおかげで無事開催できたことに、陸上部一同心から感謝しております。一日も早い復興をお祈り申し上げます。



ソフトテニス部 3年 深堀 将平・黛 英伯

顧問の先生をはじめ、OBの方々のご指導、ご協力のおかげで県総体の個人戦で優勝し、全国大会出場を果たすことができました。強豪校を前に自分たちのテニスが完璧にはできず、少し悔いは残りましたが、全国という舞台に立てたことは、非常に良い経験となりました。

これからも多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、新たな目標に向かって、全力で取り組んでいきたいと思ひます。



運動部の活動

- ①県総合体育大会
- ②関東大会
- ③インターハイ予選
- ④全国高校総体
- ⑤国体
- ⑥県新人大会
- ⑦その他の大会

硬式野球部

○春季大会

- 2回戦 高崎13-6 桐生南高校
- 3回戦 高崎7-4 伊勢崎興陽
- 4回戦 高崎4-3 利根実業
- 準々決勝 高崎6-4 高崎商業
- 準決勝 高崎3-9 樹徳(ベスト4)

○選手権

- 2回戦 高崎12-2 下仁田高校
- 3回戦 高崎12-1 高崎商大附
- 4回戦 高崎6-3 沼田高校
- 準々決勝 高崎4-7 高崎商業(ベスト8)

○秋季西毛リーグ

- 高崎5-3 榛名高校
- 高崎0-3 高崎商業

高崎3-0 中之条高校

高崎44-0 松井田高校

準決勝 高崎1-0 高崎商大附

決勝 高崎7-1 高崎工業(優勝)

○秋季大会

- 2回戦 高崎3-1 伊勢崎商業
- 3回戦 高崎2-0 伊勢崎清明
- 4回戦 高崎5-0 明和県央
- 準々決勝 高崎4-3 前橋育英
- 準決勝 高崎7-0 沼田高校
- 決勝 高崎2-7 健大高崎(準優勝)

②秋季関東大会

- 1回戦 高崎4-2 東海大望洋
- 準々決勝 高崎4-2 東海大甲府
- 準決勝 高崎3-6 作新学院(ベスト4)

ラグビー部

⑦1年生大会

- 高崎10-0 伊勢崎
- 高崎7-14 樹徳
- 高崎5-36 農二
- (単独チームの部4位)

⑦県選手権大会

- 高崎53-0 伊勢崎
- 高崎7-27 太田(ベスト8)

サッカー部

③4回戦 高崎2-2 常磐

5PK4

準々決勝 高崎2-1 共愛学園

準決勝 高崎0-2 伊商(ベスト4)3位

⑦全国高校サッカー選手権大会

群馬県大会 決勝トーナメント

高崎1-2 常磐(ベスト16)

バレーボール部

③3回戦 高崎2-0 藤中央

準々決勝 高崎2-0 前商

準決勝 高崎1-2 伊勢崎(第3位)

⑤群馬県選抜として1名関東ブロック大会に参加(砂川智哉)関東ブロック敗退

群馬2-1 茨城

群馬0-2 東京

群馬0-2 栃木

⑦群馬県高等学校バレーボール選手権大会

3回戦 高崎2-0 高工

準々決勝 高崎2-0 明和県央

準決勝 高崎1-2 桐商(第3位)

⑦西毛地区大会

2回戦 高崎2-0 勢農・榛名合同

準決勝 高崎1-2 高工(第3位)

陸上競技部

③市川響太郎	110mH	決	5位
佐藤誠一郎	5000mW	決	3位
市川響太郎	棒高跳	決	5位
齋藤 郁磨	走幅跳	決	7位
田代 和也	八種競技	決	1位
関口 俊介	八種競技	決	4位
・男子総合成績	29点		第6位
④田代 和也	八種競技	決	27位
佐藤誠一郎	5000mW	予	失格
市川響太郎	110mH	予	組7位
	棒高跳	予	記録なし
⑥東間 央剛	100m	決	2位
齋藤 郁磨	200m	決	5位
安達耀一郎	800m	決	8位
大谷 拓嗣	1500m	決	2位
新井 琢也	1500m	決	7位
牛窪 浩平	5000m	決	1位
市川響太郎	110mH	決	2位
田代 健人	110mH	決	5位
高橋 快	3000m S C	決	6位
	4×100mR		
齋藤 郁磨	1走	決	1位
東間 央剛	2走		
久新陽一郎	3走		
市川響太郎	4走		
	4×400mR		
東間 央剛	1走	決	4位
久新陽一郎	2走		
丸山 侑飛	3走		
齋藤 郁磨	4走		
岡田 大樹	走高跳	決	4位
市川響太郎	棒高跳	決	4位
齋藤 郁磨	走幅跳	決	2位
阪本 哲郎	三段跳	決	1位
小坂橋遼太	三段跳	決	7位
宮入 紳豪	砲丸投	決	8位
宮入 紳豪	円盤投	決	4位

・3位以内の上記7種目で関東選抜新人大会(東京・駒沢)に出場

⑦県高校駅伝(群馬県伊勢崎市・伊勢崎市陸上競技場周回コース)

牛窪 浩平	
川上 航	
田中 渉	
大谷 拓嗣	
吉野 順久	
小林 水友	
石原 翔	

・総合成績 第2位

※11年連続関東高校駅伝出場権を取得

⑦関東高校選抜新人大会(東京・駒沢)

東間 央剛	100m	決	6位
大谷 拓嗣	1500m	決	9位
牛窪 浩平	5000m	決	3位
市川響太郎	110mH	決	棄権
	4×100mR		
齋藤 郁磨	1走	決	4位
東間 央剛	2走		
久新陽一郎	3走		

市川響太郎	4走		
齋藤 郁磨	走幅跳	決	9位
阪本 哲郎	三段跳	決	5位

⑦学校対抗(前橋)

東間 央剛	100m	決	3位
久新陽一郎	200m	決	7位
田代 和也	400m	決	6位
長壁 拓郎	400m	決	8位
川上 航	800m	決	7位
田中 渉	5000m	決	8位
市川響太郎	110mH	決	2位
田代 健人	400mH	決	3位
高橋 快	3000mSC	決	5位
石原 翔	3000mSC	決	8位
佐藤誠一郎	5000mW	決	1位

	4×100mR		
東間 央剛	1走	決	5位
市川響太郎	2走		
齋藤 郁磨	3走		
高橋 佑輔	4走		

	4×400mR		
田代 和也	1走	決	3位
齋藤 郁磨	2走		
関口 俊介	3走		
長壁 拓郎	4走		

岡田 大樹	走高跳	決	6位
丸橋 颯	走高跳	決	8位
市川響太郎	棒高跳	決	3位
齋藤 郁磨	走幅跳	決	2位
関口 俊介	走幅跳	決	5位
阪本 哲郎	三段跳	決	2位
櫻井 奏人	砲丸投	決	6位
関口 俊介	円盤投	決	4位
櫻井 奏人	円盤投	決	5位
田代 和也	やり投	決	3位
櫻井 奏人	やり投	決	6位

・男子総合成績(一部校15校中)初優勝

※一部校残留、および、高前定期戦部活對抗の部で前高に勝利

水泳部

⑦関東高校県予選 競泳男子総合	第6位
バタフライ100m	神原孝行 4位
個人メドレー200m	神原孝行 4位
個人メドレー200m	後藤大輝 2位
個人メドレー400m	後藤大輝 1位
自由形400m	増田泰誠 5位
自由形1500m	増田泰誠 5位
400mリレー(後藤・増田・関口・神原)	4位
800mリレー(神原・堀込・増田・後藤)	5位
400mメドレーリレー(神原・後藤・堀込・増田)	5位
①県高校総体水泳大会 競泳男子総合	第6位
バタフライ100m	神原孝行 6位
背泳ぎ100m	神原孝行 6位
個人メドレー200m	後藤大輝 3位
個人メドレー400m	後藤大輝 2位
自由形1500m	増田泰誠 3位
400mリレー(後藤・増田・下田・神原)	3位
800mリレー(神原・増田・後藤・下田)	3位
400mメドレーリレー(神原・下田・後藤・増田)	6位

⑥県高校新人大会

バタフライ50m	堀込怜士 4位
バタフライ100m	堀込怜士 2位
200mメドレーリレー(小林・武藤・堀込・青木)	6位

ソフトテニス部

③団体	2回戦	高崎3-0高経附
	3回戦	高崎2-0高北
	4回戦	高崎1-2農二
		(ベスト8)

個人 蛭間・池田組、岸・高橋組、奈良・中島組 (ベスト16)

⑥団体	2回戦	高崎3-0樹徳
	3回戦	高崎2-0前市高
	4回戦	高崎0-2健大高
		(ベスト8)

個人 奈良・中島組 3位

⑦ハイスクールジャパンカップ

深堀・黛組 予選リーグ1勝1敗

⑦1年生大会 小川・大井組(ベスト8)

⑦関東選抜大会予選

2回戦 高崎3-0育英

3回戦 高崎2-0太田

4回戦 高崎0-2前商

(ベスト8)

卓球部

③1回戦 高崎0-3太工

⑤3回戦敗退

⑥1回戦敗退

剣道部

③2回戦敗退

⑦学校対抗選手権大会 3回戦敗退

⑦学年別大会(2年生の部)

戸塚貴昭 ベスト16

三枝弘幸 ベスト16

柔道部

③団体	2回戦	高崎3-1高経附
	準々決勝	高崎2-3高商
		(ベスト8)

③個人戦	小澤航太	73kg級	ベスト8
	福田貴志	90kg級	ベスト8
	渡辺正樹	90kg級	ベスト8
	角田裕祐	100kg級	準優勝

⑤県予選 角田裕祐 90kg級 優勝
関東ブロック予選

群馬県チーム 1勝3敗

⑦群馬県ジュニア体重別選手権大会

角田裕祐 100kg級 準優勝

⑦関東ジュニア体重別選手権大会

角田裕祐 100kg級 1回戦

⑦県強化選手選考会

角田裕祐 100kg級 優勝

《相撲競技》

③団体

決勝リーグ 高崎1-4 渋川青翠
高崎2-3 樹徳
0勝2敗(第3位)

③個人戦 渡辺正樹 ベスト8

今井悠貴 ベスト8

角田裕祐 準優勝

(インターハイ出場)

④角田裕祐 0勝3敗 予選敗退

⑤県予選 渡辺正樹 ベスト8

今井悠貴 ベスト8

角田裕祐 準優勝(出場)

⑤国体(山口)

群馬県チーム 0勝3敗 予選敗退

⑥団体 第3位

個人 角田裕祐 準優勝

今井悠貴 第3位

弓道部

③団体 ベスト16

空手道部

③団体組手 第5位(ベスト8)

⑥団体組手 第5位(ベスト8)

⑥個人組手 澁谷隼人 第5位(ベスト8)

⑥個人形 牧 洸大 第5位(ベスト8)

⑦群馬県高等学校空手道1・2年生大会

個人形 澁谷隼人 第5位(ベスト8)

軟式野球部

③1回戦 高崎6-0 館林

2回戦 高崎1-3 高工

⑥1回戦 高崎3-1 高商

2回戦 高崎0-10 前橋育英

⑦第59回春季関東高等学校軟式野球大会

1回戦 高崎4-3 日出国(千葉)

準々決勝 高崎3-4 土浦日大(茨城)
(ベスト8)

テニス部

③ベスト16

⑥2回戦 高崎4-1 高経附

3回戦 高崎0-3 前商(ベスト16)

バドミントン部

③学校対抗戦

1回戦 高崎3-0 桐工

2回戦 高崎3-1 前市高

3回戦 高崎0-3 太商(ベスト8)

シングルス 田中 ベスト64

今井 ベスト64

ダブルス 須藤・松井組(ベスト32)

今井・築嶋組(ベスト64)

⑤シングルス 須藤(ベスト32)

松井(ベスト32)

ダブルス 須藤・松井組(ベスト32)

⑥学校対抗戦

1回戦 高崎0-3 館林

シングルス 森田 3回戦進出

ダブルス 金井・山口組(ベスト64)

スキー・スケート部

⑦全国高等学校選抜スキー大会

増村賢人 GS・SL出場

②関東高等学校スキー大会

山田 駿 SL8位

増村賢人 SL12位・GS17位

③高校総体スキー競技会兼

全国高等学校スキー大会県予選

山田 駿 SL4位

増村賢人 GS15位

④全国高等学校スキー大会(インターハイ)

山田 駿 SL出場

バスケットボール部

①群馬県高等学校総合体育大会バスケット

ボール競技会兼第65回関東高等学校

バスケットボール選手権大会県予選会

1回戦 高崎 86-27 渋工

2回戦 高崎 78-46 新島

3回戦 高崎 103-66 沼田

準々決勝 高崎 109-80 高商

準決勝 高崎 66-102 桐一

3位決定戦 高崎 94-80 前商

(結果:第4位)

③群馬県高等学校バスケットボール選手権大会兼

第64回全国高等学校総合体育大会県予選会

1回戦 高崎 95-41 伊工

2回戦 高崎 82-44 前橋

3回戦 高崎 95-63 富岡

準々決勝 高崎 93-95 高商

(結果:ベスト8)

⑤群馬県選抜(中島一樹)1名参加

1回戦 群馬 90-81 東京

準決勝 群馬 98-84 神奈川

決勝 群馬 130-97 千葉

(結果:優勝 国体出場権獲得)

⑤群馬県選抜(中島一樹)1名参加

1回戦 群馬 77-79 京都

(結果:ベスト16)

⑦全国高等学校バスケットボール

選抜優勝大会県予選会

2回戦 高崎 93-52 渋工

3回戦 高崎 98-68 桐南

4回戦 高崎 88-81 太商

準々決勝 高崎 65-78 前商

(結果:ベスト8)

⑦西毛地区バスケットボール新人大会

2回戦 高崎 72-55 健大高

3回戦 高崎 89-31 安中総合

準決勝 高崎 78-55 中央中等

決勝 高崎 61-75 高商

(結果:2位)

学芸部の活動

数学部

○数学選手権大会 団体戦 math battle

地区予選 1次・2次予選

突破→全国大会進出

全国大会 3次予選(準決勝戦)敗退

物理部

○通学活動としてCおよびC++を用いた

プログラミング

立命館大学情報工学部主催

「立命館・全国高校生ソフトウェア

創作コンテスト ICT challenge+R 2001」

2年 齋藤雄太 最優秀賞

文芸部

○第6回群馬県高校生文学賞

文芸誌部門 優秀賞

「高高文芸 翠巒 第四号」

俳句部門 優良賞

「冬の朝」 1年 竹内祥一朗

美術部

○第35回群馬県高校芸術祭美術工芸部門展

4名 計6点出展

吹奏楽部

○11月/西部地区アンサンブルコンテスト

木管三重奏・クラリネット三重奏・打楽器

四重奏 金賞 サックス四重奏 銀賞

○12月/県アンサンブルコンテスト

木管三重奏 金賞 クラリネット三重奏 銀賞

○1月/西関東アンサンブルコンテスト

木管三重奏 金賞

○3月/全日本アンサンブルコンテスト

木管三重奏 金賞

○5月/西部地区ソロコンテスト

寺島 和希(フルート)・安富 元彦(オーボエ) 金賞

戸塚 泰輔(ファゴット) 銀賞

○6月/県ソロコンテスト

寺島 和希(フルート)・安富 元彦(オーボエ) 金賞

○7月/第52回定期演奏会

○7月/県吹奏楽コンクール

高校A組 金賞

○9月/西関東吹奏楽コンクール

高校A組 銅賞

マンドリン部

○7月/第44回定期演奏会

(於:群馬音楽センター)

○7月/第41回全国高校ギター・マンドリ



吹奏楽部 3年 寺島 和希

私たちは今年の3月の全日本アンサンブルコンテストに、木管三重奏という編成で出場し、金賞をいただきました。高崎高校初の全国ということで不安や緊張もありましたが、私たちの音楽をしっかりと表現することができたと思います。

また、他団体の演奏を聴いて多くのことを学んだので、この経験を活かして表現の幅をさらに広げていきたいです。

ンフェスティバル出場(於:大阪府吹田市文化会館メイシアター) 優秀賞受賞

- 9月/第7回群馬学生ギター・マンドリンフェスティバル出場(於:高崎市文化会館)
- 12月/第14回クリスマスコンサート
- 2月/第42回群馬県高等学校ギター・マンドリンコンクール(於:大泉町文化むら)

合唱部

《22年度》

- 1月/第4回群馬県音楽アンサンブルコンテスト銀賞(於:伊勢崎市文化会館小ホール)

《23年度》

- 7月/平成23年度群馬県高等学校芸術祭音楽部門団体演奏会(於:群馬音楽センター)
- 7月/高崎高校合唱部定期演奏会・群馬県高校生合同合唱団演奏会(於:高崎市文化会館)
- 7月/第51回群馬県合唱コンクール(於:みかほみらい館大ホール)
- 8月/第35回全国高等学校総合文化祭合唱部門(群馬県合同合唱団として参加)(於:福島市音楽堂)
- 8月/第78回NHK全国学校音楽コンクール群馬県コンクール(於:前橋市民文化会館大ホール)
- 11月/第17回群馬県高等学校総合文化祭総合開会式アトラクションに参加(於:群馬音楽センター)
- 11月/第17回群馬県高等学校総合文化祭合唱・器楽管弦楽2専門部合同演奏会(高崎・前高合同合唱団として参加)(於:群馬音楽センター)
- 12月/第14回クリスマスコンサート(於:翠巒会館ホール)
- 1月/第5回群馬県音楽アンサンブルコンテスト(於:前橋市民文化会館小ホール)

和太鼓部

- 4月/第23回たかさきスプリング市民芸ステージ参加
- 6月/「ぐんま一番上毛かるた編」群馬テレビ番組出演
- 7月/第5回群馬県高校生郷土芸能発表会
- 7月/よいし祇園まつり 依頼演奏
- 7月/読み聞かせ夏祭り(高崎市西部公民館) 依頼演奏

- 7月/八千代町二丁目町内会納涼祭依頼演奏
- 8月/第37回高崎まつり 伝統文化和太鼓部門参加
- 8月/第2回関東高校和太鼓選手権銀賞受賞
- 8月/城南小学校地区納涼祭 依頼演奏
- 9月/第21回国際交流の集い(高崎市国際交流協会) 依頼演奏
- 10月/第25回高崎ふれあいの広場(高崎市社会福祉協議会) 依頼演奏
- 11月/第17回群馬県高等学校総合文化祭郷土芸能専門部大会 最優秀賞受賞
- 11月/第25回高崎市農業まつり 依頼演奏
- 3月/第3回定期演奏会(予定)

演劇部

- 7月/演劇部旗揚げ公演 小林賢太郎作『エアメールの嘘』『蒲田の行進曲』(於:翠巒会館ホール)
- 9月/「平成23年度高校芸術祭演劇部門西毛地区大会 井口翔太作宮口雄太潤色『桃太郎退治に行こう』」(於:みかほみらい館小ホール)
- 12月/クリスマス公演(於:翠巒会館ホール)

JRC部

- 5月/高崎地区高校生協議会総会参加
- 7月/県高校生リーダーシップTC参加
- 10月/観音山清掃参加
- 11月/高崎地区TC参加 県総合文化祭参加
- 12月/県ワークショップ発表会参加 高崎地区歳末助け合い募金参加

囲碁部

- 4月/第35回全国高校囲碁選手権大会群馬県大会 団体戦 優勝(小澤弘季、北爪裕幸、山崎祐希)
- 5月/第35回全国高校囲碁選手権大会群馬県大会 個人戦 優勝(小澤弘季) 準優勝(山崎祐希) 第3位(北爪裕幸)
- 7月/第1回高崎高校囲碁講習会 指導者:小松藤夫(八段)、参加生徒6名
- 7月/第35回文部科学大臣杯全国高校

囲碁選手権大会

団体戦 第8位

(小澤弘季、北爪裕幸、山崎祐希)

個人戦 予選リーグ敗退

(小澤弘季、山崎祐希)

- 8月/第35回全国高等学校総合文化祭 個人戦 33位(北爪 裕幸)
- 10月/第27回関東地区高等学校囲碁選手権大会群馬県予選会 団体戦 優勝(小澤弘季、北爪裕幸、大槻直史) 個人戦 優勝(小澤弘季) 準優勝(大槻直史) 3位(北爪裕幸)
- 1月/第27回関東地区高等学校囲碁選手権大会 団体戦 出場(小澤弘季、北爪裕幸、大槻直史)) 個人戦 出場(小澤弘季、北爪裕幸、大槻直史)

将棋部

- 第38回群馬県高等学校将棋選手権大会出場
- 第17回群馬県高等学校将棋新人戦 1年 横尾 悠人 3位入賞

鉄道研究部

- 8月/第3回全国高等学校鉄道模型コンテスト(東京) 努力賞
- 9月/頑張るぐんまの中小私鉄フェア2011参加
- 11月/第17回群馬県高等学校総合文化祭参加

新聞部

- 第15回全国高校新聞年間紙面審査賞優良賞
- 第25回群馬県高校新聞コンクール知事賞
- 群馬県高校総合文化祭特報新聞「上州若人」取材参加
- 「高崎高校新聞」・「高崎高校新聞翠巒 MiniPress」発行
- 定期戦速報「前高高合同新聞」発行(県立前橋高校新聞委員会と合同製作)
- 第25回県高校新聞コンクール知事賞

放送メディア部

- NHK杯全国高校放送コンテスト県大会 テレビドラマ部門 最優秀賞 ラジオドラマ部門 最優秀賞
- 全国高等学校総合文化祭(福島大会) ビデオメッセージ部門参加
- 県高校放送コンクール参加

写真部

- 4月/春の合同撮影会参加
- 7月/社会交通工学科コンテスト2011 2年 大木啓太 特別賞
- 9月/第59回群馬県写真展覧会 1年 白石智大 ヤング部門入選
- 11月/第28回群馬県高校写真展出品
- 2月/第18回関東地区写真展 県内作品展出品

伝統の継承そして未来へ 「翠巒祭」開催

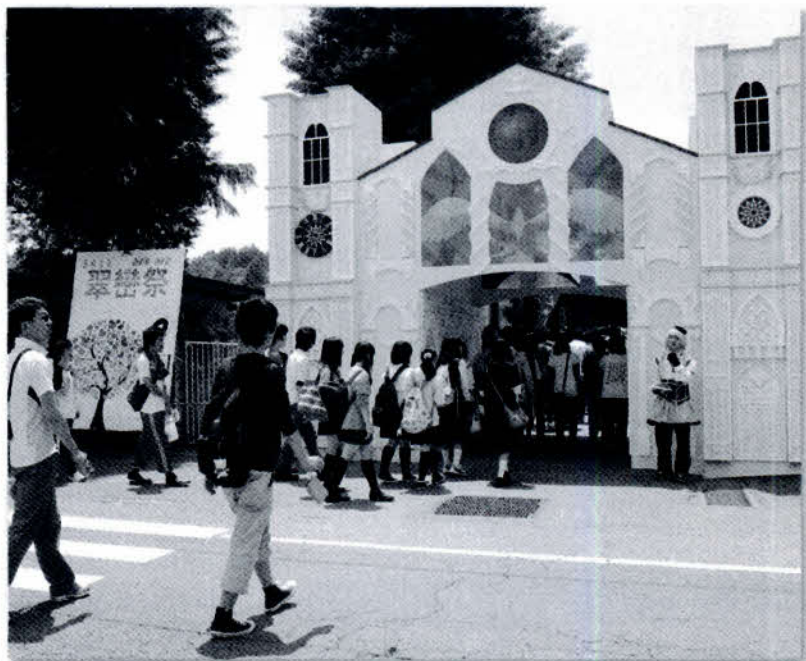
第59回翠巒祭は『WILL connect』というテーマのもと、10708人もの来場者を迎え、大盛況の中幕を閉じました。

もはや翠巒祭は高々生にとって、無くてはならない存在だと思います。翠巒祭という大きな「伝統」を前に悩み、考え、挑み、自分たちにとって最高の翠巒祭を新たに創り上げる。そうした過程を経て、男子高校生はより高々生らしく成長するのだと思います。翠巒祭は、学校の文化祭という以上に、何か特別な役割を果たしているように感じます。

来年、翠巒祭は60回目という大きな節目を迎えます。今回の反省を活かし、後輩たちはより素晴らしい翠巒祭を創ろうと意気込んでいます。ぜひ、高崎高校へ実際に足を運んでいただき、翠巒祭の「伝統」、高々生のパワーを肌で感じていただければ幸いです。

最後となりましたが、第59回翠巒祭を開催するにあたり、御尽力をいただきましたすべての方へ、心から感謝を申し上げますとともに、高々生へより一層の御支援を賜りますようお願い申し上げ、御報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

第59回翠巒祭実行委員長 3年 河浦 敦也



▲多くの来場者を迎える立派な特大アーチはまさに翠巒祭の顔

地域の方々とともに紡ぐ伝統文化



▲特大の壁画は力のこもった作品のひとつ



▲迫力のある和太鼓の響きが来場者を魅了



▲沿道を賑やかに行進する恒例の仮装行列



生徒のひとりひとりの
自主性が集まり、
伝統ある翠巒祭を
創り上げている。



第65回 定期戦



定期戦が終わった今、「ありがとう」という思いでいっぱいです。7点差で敗北という結果になりましたが、自分は定期戦実行委員長を務めることで何か得たものがあつたと確信できます。

自分は定期戦本戦、敵地にて「胸を張って高崎に帰ろう」と高々生に伝えました。敗北が決まった閉会式でも同じ事を伝えました。しかし、最も胸を張ることができていなかったのは、間違いなく自分でした。そんな自分を立ち直らせてくれたのは、高々生という共に闘った仲間でした。高崎に帰れば、いつものように高々に通えば、そこには960人の仲間がいました。定期戦を経て仲間との絆を再確認することができました。前高に勝つために共に練習し、共に鼓舞し、多くの時間を共に過ごした仲間は今までとは違う、自分には大きすぎるものを与えてくれました。

先輩方の偉大な5連覇という記録、また6連覇への夢を途絶えさせてしまいましたが、来年からの高々勝利を願うとともに、定期戦に御尽力いただいたすべての方へ深い感謝を申し上げ、定期戦報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

第65回定期戦実行委員長 3年 荻原 幹

第65回定期戦得点表

部対抗		種 目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
		水 泳	0	9
		駅 伝	6	3
		綱引き	0	9
		玉入れ	3	6
		ソフトボール	6	3
		長 縄	6	0
0	6	卓 球	1	8
6	0	陸上競技	1.5	7.5
6	0	ソフトテニス	6	3
6	0	バレーボール	6	3
6	0	バスケットボール	6	3
6	0	柔 道		
0	6	剣 道		
0	6	弓 道		
6	0	空手道		
0	6	サッカー		
6	0	ラグビー		
3	3	硬式野球		
0	6	軟式野球		
0	6	テニス		
45	39	小 計	41.5	54.5
86.5	高高	総 合	前高	93.5

進路状況(全日制) ()内は現役

大学	年次	21年	22年	23年	大学	年次	21年	22年	23年	大学	年次	21年	22年	23年
北海道大		4(3)	10(6)	6(5)	名古屋大		1(1)	3(3)	2(2)	慶 應 大		41(32)	38(21)	39(24)
東 北 大		17(13)	21(17)	28(25)	京 都 大		3(2)	2(1)	8(6)	早稲田大		83(67)	53(33)	77(52)
筑 波 大		7(5)	11(10)	11(10)						中 央 大		76(70)	59(44)	72(48)
千 葉 大		7(6)	7(7)	4(3)						明 治 大		116(103)	94(69)	101(74)
群 馬 大		22(20)	26(21)	23(9)						上 智 大		8(8)	7(4)	4(4)
(医)		0(0)	6(4)	7(5)						立 教 大		27(19)	21(14)	22(15)
埼 玉 大		6(6)	5(4)	11(10)						学 習 院 大		4(2)	3(1)	7(3)
東 京 大		17(17)	9(4)	7(5)						青 山 学 院 大		21(15)	16(14)	11(5)
一 橋 大		1(1)	2(1)	4(4)						法 政 大		31(24)	42(36)	37(25)
東 工 大		5(5)	4(3)	6(4)						日 本 大		39(34)	70(58)	56(41)
横 国 大		4(3)	3(2)	5(3)						東 京 理 科 大		65(54)	99(74)	92(65)
新 潟 大		16(12)	8(5)	16(15)						芝 浦 工 業 大		51(42)	57(53)	63(54)
金 沢 大		8(7)	5(5)	4(4)	首都大東京		0(0)	0(0)	8(5)	同 志 社 大		18(12)	3(2)	12(9)
信 州 大		3(3)	2(1)	1(0)	高 経 大		8(6)	11(8)	22(19)	立 命 館 大		3(3)	11(7)	15(12)

同窓会本部 INFORMATION

本部役員人事

■役員任期满了につき、1月22日(土)
第109回総会に於て役員が改選、承認されました。

会 長	佐藤 和徳	57期	昇格	
副 会 長	大木 紀元	58期	留任	
	高木 賢	61期	新任	
	横田 貞一	65期	新任	
	串田 紀之	67期	留任	
	長坂 資夫	70期	留任	
	金井 尚之	74期	留任	副校長
	武藤 正美		留任	全日教頭
	武井 正		留任	通信教頭
会計監査	浅沼 孝章	73期	留任	
	松岡 光弘	77期	留任	

■役員人事に伴い下記の役員が佐藤会長より
委嘱されました。

本部幹事長	若山 享	58期	留任
本部幹事	15名		
書 記	2名	校内幹事	
会 計	2名	校内幹事	
常任理事	154名		
理 事	244名		

■新任顧問は常任理事会を経て佐藤会長より
委嘱され就任されました。

顧 問	原 浩一郎	56期	新任	前会長
	藤倉 新一	68期	新任	前校長
	羽鳥 進一		新任	校長

第110回高中高高同窓会新年総会のご案内

同窓生の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今回の新年総会は、私達81期が担当させていただくこととなりました。心に残る新年総会になることを目標に、諸先輩のご指導、ご助言を仰ぎながら準備を進めております。

懇親会も、楽しい会になるように企画の準備を進めておりますのでご期待ください。

同期の方々、先輩後輩の方々お誘い合わせのうえ一人でも多くの、同窓生の皆様のご出席を心よりお待ちしております。

期日:平成24年1月28日(土) 時間:午後3時より

場所:高崎ビューホテル 会費:5,000円 (当番期81期代表 岩井 均)

セルリアンブルーの新車納入

平成23年10月26日に同窓会より46人乗りのバスが寄贈されました。学校バスは2台あり運動部を中心に利用しています。そのうち平成3年車のバスが老朽化により近年故障が続いていたところ、事故等への配慮から新車を購入して頂きました。ナンバープレートは母校創立年に因んで「1897」としました。早速翌日は硬式野球秋季関東大会出場のために「使い初め」となりました。お陰様で幸先よくベスト4まで勝ち進むことができました。新たなバスは今後とも高崎高校生の諸活動を支える大きな力となることでしょう。



▲母校創立年と同じ「18-97」のナンバープレート

第18回 同窓会ゴルフ大会結果報告

開催日 2011年5月15日(日)
開催場所 サンコー72カントリークラブ
参加人数 211名
当番幹事期 74期

○団体戦

グロスの部 優勝 71期 336.0
準優勝 76期 338.0
ネットの部 優勝 76期 287.4
準優勝 75期 287.8

○個人戦

NETの部

順位	氏名	期別			GROSS	HDCP	NET
1	岸 修	76	38	38	76	8.4	67.6
2	吉井 剛	80	48	46	94	25.2	68.8
3	後藤 二三男	85	42	43	85	15.6	69.4
4	吉井 研策	66	42	41	83	13.2	69.8
5	松本 博崇	75	42	45	87	16.8	70.2



表彰式での様子

GROSSの部

順位	氏名	期別			GROSS
1	岸 修	76	38	38	76

◆◆◆◆◆人事異動◆◆◆◆◆

(平成23年度)

〈退任者・転出者〉

校長 藤倉 新一 退職
社会 西澤 南 県立伊勢崎
社会 茂原 賢三 藤岡中央
数学 篠原 浩一 渋川
理科 諏訪 賢一 県・学校人事課
体育 塚本 素弘 太田フ教頭(通)昇任
体育 鳥居 吉二 渋川青翠
芸術 萩原 弘和 前橋南
英語 木村 高巳 富岡
英語 川崎 洋一 渋川女子
理科助手 武井みどり 中途退職
事務 小林 泰子 高崎女子

〈新任者〉

校長 羽鳥 進一 県立伊勢崎
社会 井上 貴智 県立伊勢崎
社会 森田 達也 桐生
数学 遠山 聡 尾瀬
理科 安田 素彦 前橋女子
体育 柴山 俊広 桐生市立商業定時制
体育 田中 利明 渋川青翠
芸術 黒岩 伸枝 伊勢崎清明
英語 滝沢 賢一 前橋女子
英語 吉澤 正明 前橋商業
理科助手 松島 孝子 地方臨
事務 天田 香織 新採用

通信制

〈退任者・転出者〉

教頭 武井 正 高崎東
教諭 矢島 恵子 退職

〈新任者〉

教頭 加藤富士人 県立前橋高昇任
英語 竹渕 文明 前橋清陵定時制

本部より

校歌等CD制作完成・販売

○購入方法

①直接購入【同窓会事務局】高崎市八千代町2-4-1 TEL027-320-6024
【同窓会新年総会・東京同窓会総会・藤岡翠樹会総会】

②現金書留による購入・郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記の上、お申し込み下さい。

③振込み送金による購入・郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記の上、
下記口座にお振り込み下さい。

【口座名】群馬県立高崎高等学校同窓会

【口座番号】00110-9-17960

●価格 ①の場合1,000円 ②③の場合1,300円 送料共

第五回高崎高校OB 囲碁大会開催のお知らせ

- 1.月 日 平成24年2月12日(日)
- 2.場 所 高崎中央公民館(2F・第1学習室)
- 3.時 間 9時20分集合、9時45分対局開始
- 4.対戦方法 ハンデ戦、4回戦(どなたでも4回は対局)
- 5.会 費 2,000円(昼食代他を含む)
- 6.表 彰 A・Bブロック 1位・2位(特別賞・3勝賞ほか)

*駐車場/第1駐車場をご利用下さい。

*連絡先/初参加希望者は事務局・藤崎までご連絡下さい。

TEL:090-3573-7475

平成二十三年 褒章・叙勲受章者

(敬称略)

〈平成23年春の褒章〉

黄綬褒章 小林 輝男(61期)

〈平成23年春の叙勲〉

瑞宝中綬章 清水 一郎(57期)

瑞宝小綬章 高橋 清(53期)

〈平成23年秋の叙勲〉

瑞宝双光章 高橋 一郎(58期)

瑞宝双光章 植原伊佐美(59期)

瑞宝双光章 大手 克己(59期)

瑞宝双光章 後閑 和吉(定時2)

〈平成22年表彰〉

法務大臣表彰 大島 進(57期)

中曽根康弘元首相 名誉県民に

平成23年10月28日、本校出身の中曽根康弘元首相(35期卒・93歳)が名誉県民に選ばれ、その表彰式と肖像画の除幕式が県庁昭和庁舎で開かれた。

中曽根氏は報道機関のインタビューでは「群馬は歴史的にも地理的にも非常に立派な県。この歴史と伝統を受け継ぎ、次の世代の皆さんも一生懸命頑張ってもらいたい。群馬県は日本を引っ張っていく力になる」と、県民にエールを送った(上毛新聞)

名誉県民は過去7人に贈られ、本校関係者はアララギ派歌人の土屋文明氏(8期卒)、元首相の福田赳夫氏(21期卒)が選ばれている。



～すいらんぶんこ～

翠巒文庫
BOOK



◆翠巒文庫について◆

翠巒文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

〈平成22年10月1日～平成23年9月30日〉

●著書／作者

- 和南城孝志・近作 1976-1983 和南城孝志(67期)
- 和南城孝志・近作Ⅱ 1983-2003 和南城孝志(67期)
- 社会調査史のリテラシー 佐藤 健二(74期)
- 新型消費税改修所得税 新井 隆一(46期)
- 吉原徒然草 ※校注 上野 洋三(61期)
- 芭蕉の表現 上野 洋三(61期)
- 私の軍属従軍記 平方 行雄(36期)
- 国語の力 村田 伸宏(78期)
- 忍びの森 武内 涼(95期)
- 口鼻全開 腸管呼吸法 改定呼吸法の極意新覧 飯野 節夫(52期)

●著書／作者

- 解決! センター化学 改訂2版 金井 明(68期)
- // 牛田 啓太(95期)
- // 島田 透(95期)
- // 小宮 直人(97期)
- // 梅澤 幸平(97期)
- // 小暮 泰寛(103期)
- 「お手紙」の授業 村田 伸宏(78期)
- 中医小児科学 飯野 節夫(52期)
- 中医婦人科学 飯野 節夫(52期)
- 世界伝統医学要覧 飯野 節夫(52期)
- 塵風 齊田 仁(54期)

高高同窓会 予算決算報告

平成22年度 通常会計決算

(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

平成23年度 通常会計予算案

(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

収入の部

費 目	平成22年度予算	平成22年度実収入	備 考
前年度からの繰越金	881,217	881,217	
入 会 金	3,168,000	3,235,900	全日制322名(@9900)、通信制29名(@2000)
維 持 会 費	6,000,000	6,257,260	2,182人
利 息	8,783	1,499	
雑 収 入	110,000	1,292,380	校歌CD売上ほか
合 計	10,168,000	11,668,256	

収入の部

費 目	平成23年度予算案	前年度予算	増 △減	備 考
前年度からの繰越金	756,472	881,217	△124,745	
入 会 金	3,168,000	3,168,000	0	全日制320名(@9900)
維 持 会 費	6,000,000	6,000,000	0	
利 息	1,528	8,783	△7,255	
雑 収 入	74,000	110,000	△36,000	校歌CD売上ほか
合 計	10,000,000	10,168,000	△168,000	

支出の部

費 目	平成22年度予算	平成22年度実出費	備 考
会 議 費	1,000,000	983,355	新年総会準備ほか
祝 賀 費	800,000	924,525	叙勲記念品・卒業記念品ほか
銭 別 費	300,000	270,000	21年度末離任職員銭別
慶 弔 費	200,000	28,350	
通信印刷費	420,000	474,790	維持会費督促状・納入礼状・翠鸞会館電話代ほか
旅 費	100,000	80,000	東京同窓会出席者旅費
会報発送費	2,000,000	1,506,312	
同窓会報費	1,000,000	1,019,496	
事 務 費	1,500,000	1,262,110	事務職員人件費・事務用品ほか
同窓会長賞費	200,000	53,340	賞状・記念品ほか
補 助 費	1,600,000	2,563,626	図書館・部活動・翠鸞体育・ヒューマンサイエンスほか
環境整備費	500,000	489,300	指月庭維持管理費
雑 費	300,000	256,580	振込手数料ほか
予 備 費	248,000	0	
合 計	10,168,000	9,911,784	

支出の部

費 目	平成23年度予算	前年度予算	増 △減	備 考
会 議 費	1,000,000	1,000,000	0	新年総会準備ほか
祝 賀 費	800,000	800,000	0	叙勲記念品・卒業記念品ほか
銭 別 費	300,000	300,000	0	22年度末離任職員銭別
慶 弔 費	200,000	200,000	0	
通信印刷費	420,000	420,000	0	維持会費督促状・納入礼状・翠鸞会館電話代ほか
旅 費	100,000	100,000	0	東京同窓会出席者旅費
会報発送費	2,000,000	2,000,000	0	
同窓会報費	1,000,000	1,000,000	0	
事 務 費	1,500,000	1,500,000	0	事務職員人件費・事務用品ほか
同窓会長賞費	200,000	200,000	0	賞状・記念品ほか
補 助 費	1,600,000	1,600,000	0	図書館・部活動・翠鸞体育・ヒューマンサイエンスほか
環境整備費	500,000	500,000	0	指月庭維持管理費
雑 費	300,000	300,000	0	振込手数料ほか
予 備 費	80,000	248,000	△168,000	
合 計	10,000,000	10,168,000	△168,000	

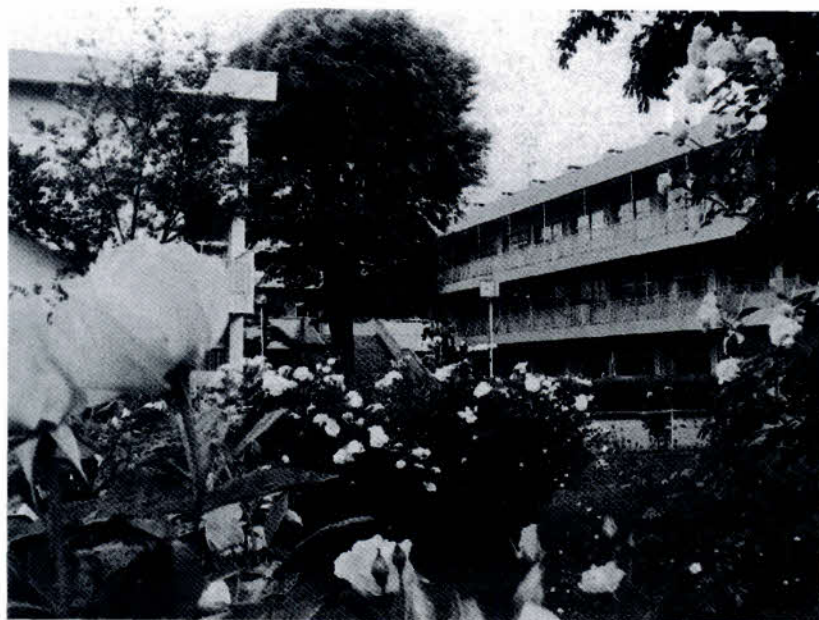
差引残高 1,756,472円 (特別会計積立 100万円 次年度繰越金756,472円)

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	20,281,989円
	平成21年度通常会計より	1,000,000円
	利 息	22,557円
	合 計	21,304,546円
支出の部		0円
	差引残高繰越金	21,304,546円

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	21,304,546円
	平成22年度通常会計より	1,000,000円
	利 息	25,454円
	合 計	22,330,000円
支出の部		0円
	差引残高繰越金	22,330,000円



維持会費の納入について

平成24年度の維持会費の納入をお願いいたします。
納入については、同封の振込取扱票(加入者名—群馬
県立高崎高等学校同窓会)もお使いいただけますが、AT
Mのご利用をお願いいたします。



群馬県立高崎高等学校 同窓会報

発行人:佐藤 和徳

編集委員:田端 稷(54期) 吉永哲郎(54期) 大木紀元(58期)

若山 享(58期) 熊野卓司(66期)

新井重雄(78期) 関根秀仁(82期)

編集 後記

同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第45号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださりまして、まことにありがとうございました。(本部幹事会)

〈維持会費の納入については、なるべくATMをご利用下さい〉

〈ご注意〉 本同窓会の会員名簿発行は、平成24年5月を予定しています。現在各会員に「確認カード」が発行され、その返信データを整理しています。時節柄作業を慎重に進めております。この時期の職業別等類似の案内・勧誘には十分に気をつけてください。